

うっしっしいー情報2017

7月市



豊岡農業改良普及センター

7月12日に行われましたセリ市全体の平均価格は、去勢が86万、雌が81万2千円でした。

普及センター調べ（税込価格）
（雄を除くため、JA公表数値とは異なります）

地域	去勢			雌			総計	
	頭数	DG	平均価格	頭数	DG	平均価格	頭数	平均価格
赤佐	12	0.976	853,560	6	0.815	667,080	18	791,400
篠山	6	1.024	881,820	5	0.840	771,120	11	831,502
丹波	30	0.972	845,244	21	0.848	772,663	51	815,358
朝来	9	0.942	870,720	2	0.833	773,280	11	853,004
播磨	17	0.994	839,859	13	0.850	738,969	30	796,140
美方郡	55	0.937	867,240	48	0.870	886,523	103	876,226
豊岡	21	0.977	892,029	17	0.881	811,842	38	856,156
養父	14	1.021	883,594	10	0.909	854,280	24	871,380
摂津・神戸	10	0.949	812,376	8	0.795	719,685	18	771,180
県北C	10	0.937	831,492	2	0.695	664,740	12	803,700
市場全体	184	0.965	860,026	132	0.857	812,283	316	840,083

7月市種雄牛ランキング

順位	種雄牛	去勢			雌			総計	
		頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均価格
1	芳悠土井	36	1.006	878,580	25	0.884	882,446	61	880,165
2	丸宮土井	22	0.952	889,429	20	0.828	822,366	42	857,494
	総計	184	0.965	860,026	132	0.857	812,283	316	840,083
3	芳山土井	44	0.967	852,439	31	0.867	819,790	75	838,944
4	千代藤土井	26	0.988	860,718	14	0.871	756,771	40	824,337
5	照忠土井	35	0.924	846,473	28	0.838	784,196	63	818,794

価格は税込み (10頭以上の出荷があった種雄牛のみ記載)

ランキング種雄牛の育種価

	種雄牛	枝肉重量	ロース芯面積	バラの厚さ	皮下脂肪厚	歩留	脂肪交雑
1	芳悠土井	A+	A	A	B	A	A+++
2	丸宮土井	B	B	A+	A++	A++ → A+	A++
3	芳山土井	A+	A++	A++	C	A+	A++ → A+
4	千代藤土井	A	A+++	D	A+	A++	A++
5	照忠土井	B	A+++	A+ → A	A+	A+++	A+

北部農業技術センター提供 (育種価評価は平成29年1月現在)

家畜市場取引きから見えてくること

～その1～

最近、牛市などで「子牛が大きくなったなー。」といった声をよく聞きます。6月20日の日本農業新聞にも市場出荷子牛が全国的に大型化している内容の記事が掲載されていました。そこで今回（7月号）と次回（9月号）の2回にわたり、市場名簿と取引結果から解る出場子牛の変化について分析します。

尚、但馬家畜市場と湯村家畜市場が統合し、現在の出荷地域となったのが平成20年4月のため、平成20年度（以下、H20年度）と平成28年度（以下、H28年度）で比較分析を行いました。

1 市場名簿頭数と出荷頭数の変化

市場名簿頭数は、3,328頭（H20年度）から2,815頭（H28年度）と513頭（15.4%）減少しています。出荷頭数（雄除く、本人落札含む）も3,108頭から2,716頭と392頭（12.6%）減少しています。

性別で比較すると、雌子牛が1,381頭から1,151頭、去勢子牛が1,727頭から1,565頭とそれぞれ230頭と162頭減少しています（表1）。

項目	H20年度 (頭)	H28年度 (頭)	増減頭数 (頭)	増減割合 (%)
名簿頭数	3,328	2,815	-513	-15.4
出荷頭数	3,108	2,716	-392	-12.6
(内 雌子牛)	1,381	1,151	-230	-16.7
(内 去勢子牛)	1,727	1,565	-162	-9.3

表1 頭数比較

増減割合をみると去勢子牛の9.3%減と比較して、雌子牛が16.7%減と落ち込みが大きいことが解ります。

2 種雄牛割合

市場名簿から分析したH20年度とH28年度の子牛の父、子牛の母の父および子牛の母の祖父の種雄牛割合の内、上位5頭は以下のとおりです（表2）。集計してみると、どの世代も同じような構成割合になっています（81%と86%、57%と57%、60%と57%）。ここで面白い点は、H20年度の子牛の父とH28年度の母父を見ると3頭（福芳・福広・菊俊）が同じです。次に、H20年度の母父とH28年度の母祖父では5頭とも同じになっています。

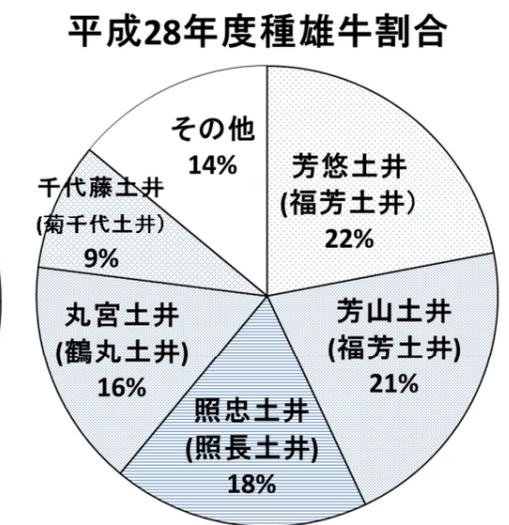
H20		H28		H20		H28		H20		H28	
父種雄牛	割合	父種雄牛	割合	母父種雄牛	割合	母父種雄牛	割合	母祖父種雄牛	割合	母祖父種雄牛	割合
福芳土井	25	芳悠土井	22	照長土井	25	福芳土井	20	菊照土井	16	照長土井	22
福広土井	23	芳山土井	21	谷福土井	11	菊俊土井	17	谷福土井	14	福芳土井	11
菊俊土井	18	照忠土井	18	福芳土井	8	照長土井	8	照長土井	12	谷福土井	11
菊宮土井	9	丸宮土井	16	第2安鶴	7	丸宮土井	6	第2安鶴	10	菊俊土井	8
照一土井	6	千代藤土井	9	菊俊土井	6	福広土井	6	安幸土井	8	第2安鶴	5
合計	81	合計	86	合計	57	合計	57	合計	60	合計	57

表2 子牛の父(左)、子牛の母の父(中央)および子牛の母の祖父(右)の種雄牛割合

次に種雄牛の偏りや種雄牛の系統について見てみましょう。H20年度では上位5頭で81%でしたが、H28年度では86%を占めており、一部の種雄牛に偏る傾向にあります。系統を見てみると、H20年度では谷福系（福芳・福広）の種雄牛が48%、菊安系（菊俊・菊宮）の種雄牛が27%占めていました。H28年度でも谷福系（芳悠・芳山）が43%占めましたが、照忠が母系に菊安を持つものの、直系（父系）の菊安系種雄牛が姿を消しました。それに代わり安美系の丸宮土井が16%を占めています（右円グラフ）。

3 産歴構成

10産以上の母牛から生まれた子牛は、販売価格が安く取引きされる傾向にあるようです。そこで、産歴構成を見るとH20年度において1～9産した母牛は73%を占め、10産以上の母牛は27%となっています。一方、H28年度では、それぞれ86%と14%となっており、この9年間で10産以上の母牛割合は、13%も減少しています（表3）。産次数の単純平均も6.2産（H20年度）から5.7産（H28年度）となり、母牛の若返りが進んでいます。



産歴	H20年度 (%)	H28年度 (%)
1～9	73	86
10以上	27	14

表3 産歴構成割合

4 出荷日齢

H20年度の平均出荷日齢は、雌子牛が273日、去勢子牛が264日でした。H28年度では、それぞれ268日と260日で、雌、去勢子牛ともに4～5日早くなっていますが、9年間でこの程度の短縮と考えると・・・。次に、地域別で比較すると表4のとおりです。どの地域でも出荷日齢が短くなっているわけではなく、豊岡、養父、丹波で短縮されています（表4）。

地域	豊岡		養父		朝来		美方郡		丹波		篠山	
	雌	去	雌	去	雌	去	雌	去	雌	去	雌	去
H20年度	279	266	277	267	274	265	266	255	279	272	270	253
H28年度	269	257	256	258	275	257	267	258	261	255	274	258
差	-10	-9	-21	-9	1	-8	1	3	-18	-17	4	5

表4 地域別出荷日齢

今回は、市場名簿を中心に比較しました。次回は、実際の子牛取引結果から、出荷時体重や増体重などの観点から書きたいと思います。